

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25014

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇全国学力学習状況調査の結果・・・国語・算数は全国平均を上回っている項目が多い。 ◇座学による既習の反復練習、プリント学習などは取り組むことができる。 ◇自力解決の時間を保証し、少人数での交流を教師の指示により取り入れることで、意欲的に自分の考えを表現する姿が見られた。 ◇ICT機器を活用し、情報収集をしたり自分の考えを表現したりする活動に対して意欲的に学ぶ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国学力学習状況調査の結果・・・多くの事項が全国平均を上回っているが校内比較で見ると、国語「読むこと」が他の項目に比べると低い状態。「情報の扱い方」は全国平均を下回っている。 ◇授業中は教師に聞かれれば自分の意見をいえるが、互いの考えを交流し合うことについてはあまりしようとししない。 ◇学校評価児童アンケートでの回答に、家庭学習への意欲がわからないのは「授業の内容が分からない」とある。「何について」「何ができるようになったか」児童が実感する授業を目指す必要がある。
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇様々な教科や活動の場で協働の機会を持ち互いを認め合える場を設定しているが、良好な人間関係を築くために個別の支援を要する児童も多いため、学級全体で互いの個性や接し方を理解するような集団づくりが必要。ひとり一人への支援を変えることができるよう教職員全体が児童にあった</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学ぶ意欲をもち続ける力、自分の思いや考えを伝えるために他に働きかける力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習規律を徹底し、全員が解決に向かえる環境をつくる。 ◇本時の理解や達成状況を振り返ることのできる場の設定 ◇仲間と考えて解決する課題には、「友達にいつでも聞いていい」を定着させるよう、座席の配置を工夫する。 ◇課題探求のために「自分で」「仲間と」を自己選択・自己決定ができる環境づくり ◇他者に働きかける協同的な探求の場の設定と教師の関わり。 ◇子どもたちの言葉や思考を補い、つなげはっきりさせる教師の関わり。 ◇日常的に授業を見合い、よりよい授業を目指す教師集団 	<ul style="list-style-type: none"> ◇よりよい学級にするための学級活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> →学級の様々な課題を議題にした学級会の充実 →計画と報告を発表する場の設定 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 <ul style="list-style-type: none"> →学級会や学年集会での振り返りの場の設定 ◇異学年集団活動で、先輩として年下を思いやるための計画を自分たちで考える。

〈本プログラムの実行に向けて〉

